

名曲の贈りもの

国立音楽大学 ブラスオルケスター演奏会



【演奏】指揮:三浦 徹 クラリネットソロ:武田忠善 吹奏楽:国立音楽大学ブラスオルケスター

2012年

9月23日(日)

午後1時開場 1時半開演

会場

羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ大ホール

入場無料・全自由席

- *定員がございますので お申込みが必要です
下記のお問合せ先で整理券を発行しております
- *定員になり次第 締め切らせていただきます
- *未就学児は入場できません

プログラム

- 行進曲 作品99 / プロコフィエフ
March, Opus 99 Sergei Prokofiev
- 象とハエ / クリング
Elephant and the Fly Henri Kling
- ハスケルの暴れ小僧 / ヨーダー
Haskell's Raskals Paul Yoder
- ホルネット・カリオン / ビンジ
Cornet Callion Ronald Binge
- トロンボナンザ / コフィールド
Trombonanza Frank D. Cofield
- サウスランパート・ストリート・パレード / バデューク & ハガート
South Rampart Street Parade Ray Bauduc & Bob Haggart
- 休憩 ----
- ハイデックスブルグ万歳 / ヘルツァー
Hoch Heidecksburg! Rudolf Herzer
- インマークライナー (だんだん小さく) / シュライナー
Immer Kleiner Adolf Schreiner
- 第一組曲 / ホルスト
First Suite for Band Gustav Holst

*演奏者の都合によりプログラムは変更されることがあります

主催 財団法人青梅佐藤財団

共催 羽村市教育委員会

後援 青梅市教育委員会

福生市教育委員会

あきる野市教育委員会

瑞穂町教育委員会

日の出町教育委員会

檜原村教育委員会

奥多摩町教育委員会

協力 NPO 法人青梅の青少年を育てる会

ゆとろぎ協働事業運営市民の会

お問合せ先 (整理券取扱い)

ゆとろぎ協働事業運営市民の会

042-570-0707

kyodo@hamura-tokyo.jp

NPO 法人青梅の青少年を育てる会

090-5195-3030

npo-sodateru@t-net.ne.jp



指揮・楽器のお話：三浦 徹



東京藝術大学卒。安宅賞受賞。ユーフォニアムと吹奏楽の研鑽のため渡米留学。南ミシシッピー大学大学院修了、イーストマン音楽学校に学ぶ。イーストマン・ウィンド・アンサンブルの首席奏者として活躍。帰国後、東京佼成ウィンド・オーケストラのユーフォニアム奏者として活躍。東京バリ・テューバ・アンサンブル、ユーフォニアム・カムパニーを創設、教育やアンサンブル活動を通じて、多くの若手を育成し才能を開花させた。国際大会にも数多く招待され、リサイタル、クリニックやコンテストの審査を務める。吹奏楽の指導者として、故フレデリック・フェネルとドナルド・ハンズバーガーの薫陶を最も強く受けている音楽家の一人。現在、国立音楽大学教授、日本吹奏楽指導者協会会員、日本管打・吹奏楽学会常任理事、日本ブラスバンド協会副理事長、国際テューバ・ユーフォニアム協会 (ITEC) 名誉顧問、元東京佼成ウィンド・オーケストラ団員、2008年 ITEC より Life Time Achievement Award (功労賞) 受賞。

クラリネット独奏：武田忠善



1975年国立音楽大学卒業。フランス国立ルーアン音楽院に留学、ジャック・ランスロに師事、同音楽院にて1等賞を得て卒業。77年パリ・ベラン音楽コンクール第1位、78年第47回日本音楽コンクール第1位、第35回ジュネーブ国際音楽コンクールで日本人初の人賞を果たし、銅メダルを受賞。古典から現代音楽に至る幅広いレパートリーを持ち、ますます脂の乗った演奏で、既に円熟の域に達していると評価される。国立音楽大学教授、エリザベト音楽大学非常勤講師として多くの逸材を育てる他、04年、パリ音楽院教授ミシエル・アリニョンの招きに応じて同音楽院においてマスタークラスをおこなう等、正当なフランス派を伝える数少ない演奏家、教育者として注目されている。

吹奏楽：国立音楽大学ブラスオルケスター

国立音楽大学ブラスオルケスターは、日本を代表する吹奏楽団です。卒業生の多くは、プロの管弦楽団や吹奏楽団などの演奏家、スクール・バンドや市民バンドの指導者、小中高大学の教員、その他、広く音楽業界で活躍しています。例えて云うならば、国立音楽大学ブラスオルケスターは、管打楽器の音楽家を育てるための“良質な畑”と言えましょう。このブラスオルケスターには、大きな編成のブラスオルケスターとシンフォニック・ウィンド・アンサンブルの2つのスタイルがあります。ブラスオルケスターは、1961年に初来日したパリ・ギャルド吹奏楽団から大きな影響を受け、管弦楽曲の編曲作品を“オーケストラよりもオーケストラのように！”を目標に掲げ、音楽的に質の高い“くにたちサウンド”を作り上げて来ました。シンフォニック・ウィンド・アンサンブルは、吹奏楽の為の委嘱作品を通して吹奏楽作品の普及に務め、日本人作曲家によるオリジナル作品の開発の牽引役を果たして来ました。(平成23年度までに41曲の委嘱作品を生み出しています。) また、吹奏楽を通じての社会貢献や国際交流において「筋道の立った指導法や演奏力」を生かした活動は、我国の吹奏楽の隆盛をより教育的、文化的なものにリードしています。音楽雑誌「バンド・ジャーナル」(音楽之友社発行)によりますと“豊潤なハーモニーのバランス”、“吹奏楽のコンサートというよりクラシックの音楽会のような質の高い演奏”と高い評価を得ています。こうした優れた内容は、国際的にも高い評価を受け、昨年12月には米国シカゴ市で開催された世界最大の吹奏楽のコンフェランス「ミッドウェスト・クリニック」から招待を受け、ファイナル・コンサートへの出演を果たしました。

国立音楽大学ブラスオルケスターの名は、国立音楽大学の管打楽器の代名詞です。

